

1 視察日及び場所

令和元年 10 月 28 日（月）

社会福祉法人 昭徳会 特別養護老人ホーム 安立荘

愛知県みよし市打越町山ノ神 6 0

2 はじめに

本校福祉科は、介護福祉士養成校であり、介護に関する専門的な知識・技術の習得を目指している。高齢化や介護人材不足などが社会問題となっているなか、実際の施設ではどのような介護が提供されているのかを視察し、今後の介護の在り方を学び、日々の授業に活用していきたいと考えた。そこで、「幸福（しあわせ）」を基本理念に、利用者の視点に立ち「回想法」の取り組みを積極的に行っている「特別養護老人ホーム安立荘」を訪問先とした。

3 内容

（1）回想法

回想法とは、認知症の方を対象に懐かしい写真や映像・物品などを用いて、思い出を語り合う心理療法の 1 つである。回想法の特性は、①誰もが持っている過去の記憶の再現であること②非薬物療法のため生活型施設などで効果的であること③いつでも、どこでも、そして誰にでも効果的であること④五感を有効的に活用し楽しみながら行えることなどである。回想法を行うことで、日中一人で過ごしている利用者の社交性や人間関係が促進され、情緒が安定し、笑顔や発言が増すなどの効果がみられる。また、この取組を通して、利用者一人ひとりと向き合い理解を深める機会となり、新たなケア方法につなげられるなどの利点がある。

安立荘では、この活動に力を入れており、2 週間に 1 回のペースで、利用者 6 人に対して介護職員が 3～4 人で 1 グループとなり実施している。

テーマは、昭和時代の家電製品や利用者の学生時代の話、夏祭り、正月など利用者に合わせて設定される。実際に回想法を行っている様子を見学させていただいたが、利用者が職員から昭和時代の家電製品について質問されると、いきいきとした表情で話している姿がみられた。施設では回想法を通して、妄想や徘徊などの認知症の症状のみられた利用者が、穏やかな表情で過ごされるという結果が得られたこともあったそうだ。回想法は、“昔の思い出”を語り合い楽しむだけではなく、利用者の本来の姿



写真 1 駄菓子屋を営んでいた利用者から寄付されたもの

を引き出し、介護施設における利用者と介護職員のケアのあり方を築き上げていく方法の1つであると学ぶことができた。

また、施設見学では、施設の入口から利用者が普段生活している共有スペースまで、利用者の幼少期から青春時代を思い出させてくれるもので溢れていた。そのため、安立荘での生活そのものが回想法となり、利用者にとって安心した生活を送ることができる場所であると感じた。写真1から写真5にあるようなものが、回想法に欠かすことのできない宝物であり、地域の方に協力していただきながら集めたそうだ。



写真2 東京大学で使われていた教材



写真3 昭和時代の教科書やそろばん



写真4 思い出ギャラリー



写真5 昭和時代の給食の様子

(2) まとめ

今回の視察を通して、認知症高齢者に寄り添うために介護職員が果たすべき役割を改めて認識することができた。報告者のうち一人は、介護施設で介護職員として働いていた経験があるが、その現場では回想法を実施していなかった。今回、施設で実施していた回想法はレクリエーションとは異なり、介護者が利用者の生活歴や本来の姿を知り、利用者を一人の人として向き合える手段となっており、このことは、利用者を尊重する本来あるべき介護の提供につながると感じた。

また、本校福祉科の生徒たちは、介護施設や障害者施設で実習をしている。認知症の方との関わり方に悩む生徒がいるため、コミュニケーションにおいて回想法の実践例や効果等を紹介し、生徒への施設実習の指導にも活用していきたい。